

第 15 回日本看護管理学会年次大会に おける論文表彰

——優秀賞，奨励賞，受賞者の喜びの声

去る 2011 年 8 月 26・27 日，東京の京王プラザホテルにて，第 15 回日本看護管理学会年次大会（大会長：坂本すが氏）が開催された。その総会のなかで，今回初めて，特に優秀と認められた論文についての表彰が行なわれた。

表彰された論文は，優秀賞が小味慶子氏（高知県安芸福祉保健所）の「Collaborative Practice Scales 日本語版の信頼性・妥当性と医師・看護師間の協働実践の測定」（共著者：大西麻未（責任著者），菅田勝也，日本看護管理学会誌，14（2），15-21，2010），奨励賞が，藤原史博氏（近大姫路大学看護学部）の「患者に対する看護師の誠意の構造——インタビューの結果から」（共著者：勝原裕美子，日本看護管理学会誌，14（2），5-14，2010）であった。どちらの論文も，今後の看護管理の分野において高く将来性が評価されたものである。以下，両氏に受賞に際してのコメントをいただいた。

医師と看護師の協働の実際は!? 小味慶子氏のコメント

「このたび，このような名誉ある賞をいただき，大変光栄に思います。チーム医療を牽引する存在である医師と看護師のそれぞれの協働の重要性や意味は異なっている可能性があるため，協働の実態やそれに関連する要因については，双方の視点から把握する必要があると考え，この研究を行ないました。今回日本語版を作成した Weiss & Davis（1985）の Collaborative Practice

Scales（CPS）には，医師用と看護師用があり，特に医師用では，看護師の専門性を理解して意見を尊重する程度や，よく話し合っ合意に至ろうとする行動を測定することができます。今後，この尺度が活用され，チーム医療の推進に伴う変化の評価や，海外との比較研究，協働を促進する取り組みの評価などに用いられるようになることを願っています。」



看護師の誠意を掘り下げる 藤原史博氏のコメント

「このたび，奨励賞を頂戴した本論文は，看護師の「誠意」について論じているものです。8 名の看護師の方々への個別面接による調査の結果，「看護実践にみられる行動や態度としての誠意」として 19 項目が明らかになりました。これらの項目に代表される看護実践における誠意は，同僚間で共有できる可能性を含んでおり，職場における看護の質そのものを向上させ得る価値ある概念であることが示唆されまし

た。しかし，看護実践における誠意はきわめて自然発生的な行為として表現されており，個人が誠意を過度に意識してしまうと偽善として認識されるという特徴的な意味を含んでいました。したがって，誠意という概念を組織に導入する際には，誠意ある看護について突き詰めて考えるのではなく，まずは先に述べた行動レベルとしての 19 項目を看護実践に反映させることにより，二次的に誠意が患者に還元されることが見込まれました。今回いただいた奨励賞を励みに継続的に研究に取り組み，看護学や社会に貢献していく所存です。」



学会がこのように，優秀論文を表彰する意味は，研究へのモチベーションを喚起させるうえでも大変大きいのではないかと。両氏のますますの活躍を祈念するとともに，これからを担う若い世代の研究への一層の注力を期待したいと思う。
（「弊誌」編集室）